小学校学習指導書における運動遊びの変遷

馬場桂一郎

1. はじめに

現代の小学生の遊びを調査してみると、次のような現状が浮かび上がる。それは、遊び時間の減少と運動を伴う遊び、つまり運動遊びの減少である。その原因として考えられるのは、通説となっている3間(時間・空間・仲間)の減少とともに、次のようなことが考えられる。遊びの方法を知らないことと、遊ぶ意欲の減退である。

遊びの方法を知らない原因は、種々の調査に見られる異年齢集団での遊びの減少により、児童期に行われた遊びの文化が伝承されていないことによると考えられる[1)]。

遊ぶ意欲の減退に関しては、子どもたちに、「自由に使える時間があれば何をしたいですか。」という質問に対しての回答は、もちろん、「遊びたい」などの能動的な回答が多いが、かなりの割合で、「ボーッとしたい・寝たい・何もしたく無い」という回答がみられる[2)]。この原因としては、子どもたちの忙しい生活の反映とともに、体を動かして遊ぶ楽しさを知らないことにもあるのではないかと考える。そこで、子どもたちの運動遊びの活性化を図るための方策として、学校で子どもたちに、遊びの方法を教えるとともに、運動遊びの楽しさを体験させる必要があるのではないかと考える。

現在の小学校の教師の中に遊びを知らない世代が多くなり、子どもたちに遊びを教えることのできない教師が増えてきていると考えられる。まず教師が、多くの遊びを知っていて、状況に応じて、子どもたちに遊びを提示し、それが子どもたちの日常的活動の中に定着することが必要だと考える。

この例として、1990年に、著者が大阪府の衛星都市で行った調査の中に、一定の小学校の学区において、他の校区では見られないビー玉遊びが、かなり高い割合で行われているという結果を得た。その原因を突き止めると、その校区の留守家庭児童会(学童保育)でビー玉遊びを教えたことにより、それが地域に持ち帰られ広まったことがわかった。また、ある保育園の年長組に、Sけんと言う戦闘遊びを教えたことがあるが、その後Sけんがその保育園の日常的な遊びとして定着してきているとの報告も受けている。

子どもの運動遊びは、学校教育においては、小学校の体育科学習指導要領(時代によって相当する学校の名称、体育科学習指導要領の名称は異なる、以下小学校体育指導書で表す。)に相当するものに多くの例示が載っている。しかし、近年の体育科指導書においては、遊び的な要素のものが減少してきている。そこで本研究は、小学校体育指導書における遊びの変遷について明らかにすると同時に、小学校体育の在り方について考えることを目的とする。

2. 方　法

大正・昭和・平成期に出された、小学校体育指導書に相当する資料の中から、遊び種目を抽出し、その変遷を調べる。

資料は次に挙げるものである。

①学校體操教授要目・文部省・大正2年1月（以下大正2年：学校體操教授要目）

②改正学校體操教授要目・文部省・大正15年5月（以下大正15年：改正学校體操教授要目）

③第2次学校體操教授要目・文部省・昭和11年6月（以下昭和11年：第二次学校體操教授要目）

④國民學校体錬科教授要項及細目・文部省・昭和17年9月（以下昭和17年：國民學校体錬科教授要項及細目）

⑤学校体育指導要綱・文部省・昭和22年11月の解説書・学校体育指導要綱解説・遊戯編・文部省諮問・目黒書店・昭和23年4月（以下昭和22年・学校体育指導要綱）

⑥小学校学習指導要領体育編・文部省・昭和24年（以下昭和24年：小学校学習指導要領体育編）

⑦学習指導要領小学校体育科編昭和28年改訂版・文部省・昭和28年（以下昭和28年：学習指導要領小学校体育科編）

⑧小学校体育指導書・文部省・昭和35年3月（以下昭和35年：小学校体育指導書）

⑨小学校指導書体育編・文部省・昭和44年5月（以下昭和44年：小学校指導書体育編）

⑩小学校指導書体育編・文部省・昭和53年5月（以下昭和53年：小学校指導書体育編）

⑪小学校指導書体育編・文部省・平成1年6月（以下平成1年：小学校指導書体育編）

⑫小学校学習指導要領解説 体育偏・文部省・平成11年5月（以下平成11年：小学校学習指導要領解説 体育偏）

である。なお、運動遊び種目をどのように規定するかは、地域性あるいは環境を考慮すると難しい面もあるが、ここで取り上げた遊び種目としては、次のような条件を満たしているものとした。

①特別な場所・施設・用具を必要としないもの。（スキー・スケートなどは除く。）

②球技では、十分な人数がいなくても、簡略化してその一部ができるもの。（バレーボール・バスケットボールなどは含む。）

③比較的身近にあるものを使ってできるもの。（縄跳び・ゴム跳びなどは含む。）

④人数は、10人以内で成立するもの。

⑤用具が手に入りやすいもの。（一輪車・竹馬などは含む。）

⑥練習とか訓練的要素を含まないもの。

⑦運動会などの特別なときに行われるものではなく日常的に行われるもの。（紅白玉入れなどは除く。）

また、鬼遊びに関しては、同系統の遊びにおいても、名称の異なるものは1種目とした。ボールゲームにおいては、時代により名称が異なっていても、同一種目とわかるもの、例えば、サッカーは、アソシエイションフットボール・蹴球、キックベースボールは、蹴塁球・フットベースボールなどと記されているが、1つのものとして考えた。

3. 結　果

先に挙げた条件を満たす運動遊びは、全資料を通しておよそ150種目が数えられる（表1）。資料別の掲載数は、（図1）のように、大正2年：学校體操教授要目32種目、大正15年：改正学校體操教授要目29種目、昭和11年：第二次学校體操教授要目34種目、昭和17年：國民學校体錬科教授要項及細目28種目、昭和22年：学校体育指導要綱解説・遊戯編34種目、昭和24年：小学校学習指導要領体育編64種目、昭和28年：学習指導要領小学校体育編72種目、昭和35年：小学校体育指導書40種目、昭和44年：小学校指導書体育編32種目、昭和53年：小学校指導書体育編22種目、平成1年：小学校指導書体育

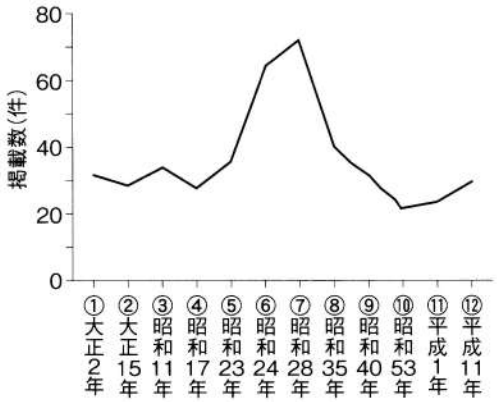

図1　遊び種目の掲載数の推移

編24種目、平成11年：小学校学習指導要領解説体育偏30種目となっている。

全資料を通して頻度の多い種目を挙げると、全資料に掲載されているものは、鉄棒・登り棒・相撲(角力)・縄跳び・水泳(水遊びを含む)であり、以下11回がサッカー・ドッジボール・対列フットボール・ポートボール。10回がバスケットボール。9回が、場所取り鬼・一人鬼。8回がキックベースボール・デッドボール・川跳び・押し出し遊び・雪遊び。7回がハンドベースボール・ソフトボール・片足相撲・雲梯・ジャングルジム・子殖やし鬼となっている。

次に掲載種目を系統的に分類すると次のように分けることができる。a. 鬼遊び(一人鬼・子取り鬼などの鬼ごっこ)、b. 歌唱を伴う遊び(かごめ・花いちもんめなど)、c. 固定遊具を使う遊び(雲梯・鉄棒など)、d. 球技(ドッジボール・サッカーなど)、e. 力比べ・競争(川跳び・片足相撲など)、f. 用具を使用する遊び(竹馬・輪回しなど)、g. 戦闘遊び(軍艦遊び・帽子取りなど)、h. その他に分けることができる。

資料に掲載されている系統別の種目数の変化を見ると、a. 鬼遊びは、図2に示すように資料、昭和24年：小学校学習指導要領体育編では25種目、昭和28年：学習指導要領小学校体育編においては24種目と多く挙がっているが、昭和35年：小学校体育指導書において激減している。昭和53年：小学校指導書体育編、平成1年：小学校指導書体育編においては3種目に減っていたが、平成11年：小学校学習指導要領解説体育編において4種目と増えている。b. 歌唱を伴う遊びは、第二次世界大戦後の一時期多く見られるが、昭和53年：小学校指導書体育編以降では挙げられていない。c. 固定遊具を使う遊びは、戦前よりも戦後に多く見られ、5から7種目見られるが、種目としてはあまり変化がない。d. 球技は、大正15年：改正学校體操教授要目から昭和28年：学習指導要領小学校体育編にかけて、昭和24年：小学校学習指導要領体育編を除いては多くの種目が挙げられていたが、昭和35年：小学校体育指導書以降は限られた種目になっている。e. 力比べ・競争は、あまり変化はないが、平成1年：小学校指導書体育編では2種目に減っている。しかし、平成11年：小学校学習指導要領解説　体育編において、6種目と増えている。f. 用具を使用する遊びは、大正2年：学校體操教授要目、昭和28年：学習指導要領小学校体育編、平成1年：小学校指導書体育編、平成11年：小学校学習指導要領解説体育編において多く見られる。g. 戦闘遊びは、昭和28年：学習指導要領小学校体育編まで

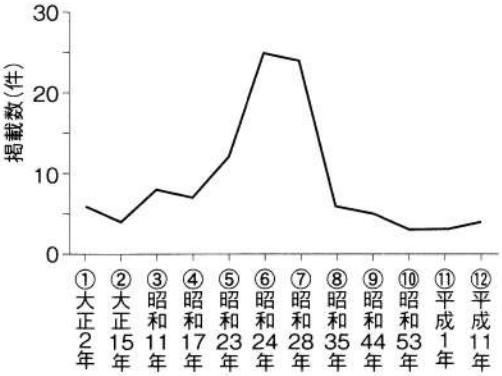

図2　鬼遊びの掲載数の推移

表1　各資料に掲載されている遊び種目

資料番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
発行年	大正2年	大正15年	昭和11年	昭和17年	昭和23年	昭和24年	昭和28年	昭和35年	昭和44年	昭和53年	平成1年	平成11年
1 足ジャンケン								○				
2 あしなぎ鬼							○					
3 あぶくたった							○	○			○	○
4 一輪車												
5 うさぎとび鬼							○					
6 馬跳び						○			○			
7 馬乗り遊び					○	○						
8 楷梯(雲梯)	○	○										
9 雲梯								○	○	○	○	○
10 円形ドッジボール		○										
11 円陣鬼		○	○									
12 エンドボール						○		○	○			
13 押合				○								
14 押し合い相撲								○		○		
15 おしくらひきくら							○	○				○
16 おしくらまんじゅう						○	○	○				
17 押し出し遊び					○	○	○	○	○			○
18 鬼遊び				○	○							
19 回転塔		○										
20 かくれんぼ						○						
21 かけっこ					○	○	○	○	○			○
22 影踏み鬼						○	○					
23 かごめかごめ						○	○	○	○			
24 重なり鬼				○	○	○	○					
25 片足相撲		○	○			○		○	○	○	○	

26 片足飛び												
27 片足跳び		○		○	○					○	○	
28 片手鬼			○	○	○		○		○			
29 からかい鬼	○	○	○			○	○					
30 川跳び			○	○	○	○	○	○	○	○		
31 汽車ごっこ								○				
32 フットベースボール*1		○	○	○	○	○	○	○				○
33 キックボール		○					○					
34 狐とがちょう							○					
35 馬乗り(騎馬)*2				○	○		○					
36 キャップテンボール*3		○	○			○	○					
37 組鬼					○			○				
38 軍艦遊び				○								
39 けん遊び					○							
40 拳鬼				○	○	○	○	○	○			
41 拳跳び			○	○			○					
42 コーナーボール*4		○	○			○	○					
43 ゴールハイ						○						
44 攻城球			○									
45 攻陳球			○									
46 氷すべり	○				○							
47 子取り鬼				○	○	○	○	○				
48 一人鬼									○	( )	( )	
49 子殖やし鬼	○	○		○	○	○	○		( )			
50 ゴム跳び							○	○	( )	( )	( )	○
51 サッカー系*5	○	○	○		○	○	○	○	( )	( )	○	○
52 シーソー							○	( )		( )		
53 しゃがみ鬼						○	( )					
54 しゃがみ相撲									( )			
55 ジャングルジム						( )	( )	( )	( )	○	○	○

資料番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
発行年	大正2年	大正15年	昭和11年	昭和17年	昭和23年	昭和24年	昭和28年	昭和35年	昭和44年	昭和53年	平成1年	平成11年
56 ジャンケン遊び			○				○					
57 じゃんけん人とり						○						
58 触球			○									
59 陣取り		○	○			○	○					
60 水泳[*6]	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
61 ずいずいずっころばし							○					
62 スキー		○				○	○	○	○		○	
63 スケート		○				○	○	○	○		○	
64 すべり台							○	○	○			
65 相撲[*7]	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
66 西洋鬼	○											
67 センターボール	○											
68 千布とり			○									
69 ソフトボール					○	○	○	○	○		○	○
70 樋遊び	○						○					
71 対列フットボール[*8]	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
72 高飛び	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
73 宝取り鬼												○
74 竹馬											○	○
75 竹の子一本							○					
76 凧揚げ	○						○					
77 たまあて							○					
78 たまなげ							○					
79 たんすながもち						○	○					
80 短棒投げ				○								

81 綱登り						○						
82 綱引き	○	○	○		○	○	○					
83 吊り縄	○	○										
84 手つき鬼						○						
85 デッドボール	○		○	○	○	○	○	○	○			
86 鉄棒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
87 テニス*9	○	○	○	○		○						
88 通りゃんせ						○	○	○				
89 ドッジボール*10		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
90 巴鬼		○	○		○	○	○	○				
91 名指し鬼						○						
92 なべなべそきおぬけ							○					
93 縄跳び*11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
94 日月遊び			○			○	○					
95 二人三脚	○					○	○					
96 猫と鼠	○		○	○	○	○	○					
97 ネットボール						○	○					
98 登り棒*12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
99 場所かえ鬼						○						
100 場所取り鬼	○		○		○	○	○	○	○	○	○	
101 バスケットボール*13	○	○	○			○	○		○	○	○	○
102 旗取り	○	○	○	○			○					
103 花いちもんめ							○	○				
104 羽根つき	○						○					
105 幅跳び	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
106 バレーボール*14		○	○			○	○					○
107 ハンカチ落とし						○	○					
108 ハンカチ取り							○					
109 ハンドベースボール*15					○	○	○	○	○		○	○
110 ハンドボール*16		○	○	○								

資料番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
発行年	大正2年	大正15年	昭和11年	昭和17年	昭和23年	昭和24年	昭和28年	昭和35年	昭和44年	昭和53年	平成1年	平成11年
111 引合				○						○		○
112 一人鬼				○	○	○	○	○			○	○
113 ひょうたん鬼						○						
114 ピンポン*17		○	○				○					
115 フープ遊び											○	
116 フィールドボール						○						
117 二人鬼										○	○	
118 フットボール鬼												
119 ぶらんこ*18	○						○	○	○			
120 プレーグラウンドボール		○										
121 平均崩し					○						○	○
122 ボートボール*19		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
123 ボール鬼						○	○					○
124 棒押	○		○			○						
125 帽子取り	○	○	○	○		○						
126 棒倒し				○	○							
127 棒取り					○							
128 棒幅跳び	○											
129 棒引き	○											
130 的落				○								
131 まね鬼						○	○					
132 迷い鬼						○	○					
133 毬つき*20	○			○	○		○					
134 見張り鬼*21					○	○	○					
135 目隠し鬼*22	○					○	○					

136 メディシンボール		○										
137 野球*23	○	○	○			○						
138 遊動円木	○											
139 遊動木							○					
140 雪遊び*24	○			○		○	○	○	○		○	○
141 横切り鬼			○			○	○					
142 横棒り		○										
143 らかんさん遊び						○	○	○				
144 ラグビー			○									
145 リレー鬼					○	○						
146 肋木	○	○							○	○	○	○
147 ロングベースボール						○						
148 ロンドンブリッジ					○			○	○			
149 輪投げ							○					
150 輪回し	○											

*1 蹴墨球・キックベースボールを含む.
*2 騎馬戦を含む.
*3 大将球を含む.
*4 隅球を含む.
*5 フットボール・簡易蹴球・蹴球・簡易サッカー・ラインサッカーを含む.
*6 水遊びを含む.
*7 角力を含む.
*8 対陣蹴球を含む.
*9 ローンテニス・フリーテニスを含む.
*10 投避球・方形避球を含む.
*11 短縄跳びを含む.
*12 立棒・棒登を含む.
*13 簡易籠球・籠球を含む.
*14 簡易排球・排球を含む.
*15 ワンアウトボールを含む.
*16 手球を含む.
*17 卓球を含む.
*18 鞦韆を含む.
*19 搬球を含む.
*20 手鞠歌を含む.
*21 後順手つなぎ鬼を含む.
*22 盲目鬼を含む.
*23 ベースボールを含む.
*24 雪すべりを含む.

はあったがその後姿を消した。h. その他の種目としては、水泳と雪遊びが一貫して挙げられている。

4. 考 察

小学校体育指導書に相当する最初のものとして、①学校體操教授要目(文部省・大正2年1月)が出され、学校体育の授業内容が示された。その中に、具体的に多くの遊び種目が提示されている。大正15年：改正学校體操教授要目、昭和11年：第二次学校體操教授要目と2回の改訂の後、戦時体制の中、軍事訓練あるいは、国民の体力向上を見据えた昭和17年：國民學校体錬科教授要項及細目が出された。この折りに、體操から体錬と名称も変更された。第二次世界大戦の終戦の後、教育基本法・学校教育法が制定され、民主国家として出発するに当たって、体育指導者のよるべき基本的指針として(学校体育指導要綱・文部省・昭和22年11月)が出され、「運用上の細部については、権威者に依頼し解説書を出す」と言う文言を受けて、昭和22年：学校体育指導要綱解説・遊戯編を含む学校体育指導要綱解説(一、総説篇・二、球技篇・三、體操篇・四、遊戯篇・五、陸上競技篇・六、ダンス篇・七、水泳篇・八、衛生篇)が出された。また、これによって体錬科は体育科と名称の変更がなされた。

昭和24年：小学校学習指導要領体育編においては、子どもたちに遊びを通しての教育という観点からと、同時に作成に関わった人物[3]から聞くと、物資、特にゴムなどの不足によって遊具の調節が困難な状況にあり、占領軍の援助物資を得るためにも、できる限り多くの遊びを例示するという形態となった。

昭和28年：学習指導要領小学校体育編は、昭和24年：小学校学習指導要領体育編の改訂版と言うことができ、より多くの種目を盛り込んだものとなっている。その後、昭和35年：小学校体育指導書が出されたが、種目の精選が進み、この時に多くの遊び種目が削除された。

昭和44年：小学校指導書体育編、昭和53年：小学校指導書体育編、平成1年：小学校指導書体育編、平成11年：小学校学習指導要領解説体育編とほぼ10年ごとに改訂が行われている。

全体的な流れを見ると、大正2年：学校體操教授要目から昭和11年：第二次学校體操教授要目においては、基本的には、子どもたちに種々の運動経験をさせるという姿勢が見られ、外国、特にアメリカで行われていた種目を多く取り入れているが、昭和17年：國民學校体錬科教授要項及細目においては、軍国主義的傾向が見られ、戦意高揚・体力づくりあるいは集団訓練的な要素が含まれており、軍艦遊び・帽子取りなどの戦闘遊びがいくつか挙げられている。

また、バレーボールが排球・サッカーが蹴球と言うように、すべての種目が日本語に置き換えられた。昭和22年：学校体育指導要綱解説・遊戯編、昭和24年：小学校学習指導要領体育編、昭和28年：学習指導要領小学校体育編においては、昭和17年：國民學校体錬科教授要項及細目の要素を排除するとともに、子どもたちを遊びを通じて教育するという姿勢が強く打ち出されている。

昭和35年:小学校体育指導書、昭和44年:小学校指導書体育編と種目の整理が進められ、昭和53年：小学校指導書体育編、平成1年：小学校指導書体育編においては、遊びよりもむしろスポーツを中心にした身体教育の傾向が現れている。

平成11年：小学校学習指導要領解説体育編においては、子どもたちの中での遊びの衰退や屋外の遊びの減少に鑑み、遊びが重視される姿勢が見られ、中低学年の「基本の運動」の内容の後に「遊び」と言う語句が付け加えられ、より柔軟な運用を促すようになっている。

掲載遊び数の変化について考えると、図1にも表れているように、指導書における運動遊びの掲載数は明らかに減少している。次に遊びの系統別に考察すると、鬼遊びは表2に示すとおり、全体を通してみれば、多くの種目が挙げられているが、徐々に減少している。鬼遊びは用具も必要でなく、人数も融通のきくものであり、体力的にも一人鬼のように持久力を要するもの、場所取り鬼・拳鬼のように敏捷性を要するもの、二人鬼のように調整力を要するものなど、種々の要素を含んでいる。

また、スポーツ種目のリードアップゲーム、あるいは準備運動としても活用できるものも多く、指導者は多くの種目を知った上で、場面に応じて活用したいものである。さらには、遊びという虚構の中でこそ許される、現在社会問題になっている、いじめ的要素や仲間はずれ的な要素が含まれており、子どもたちは、遊びの中でこのような経験をすることによって被害者の心情を理解する機会にもなると思われる。また、鬼になった場合、時にはかなりな精神的忍耐も要求されることもあり、是非多く経験させて精神的忍耐力を付けさせたいものである。

歌唱を伴う遊びは、掲載数は少ないがわらべ歌を伴う伝承的遊びが多く、日本の文化を伝える上でも大切にしたいものである。

力比べの遊びは、代表的なものとしては、押し出し遊び・片足相撲などの相撲系統のものが挙げられるが、現代の子どもが経験することが少なくなってきている身体接触を伴うものであり、同時に現代生活の中で減少している、自分の精一杯の力を出し切る遊びであるため多く経験させたい。

用具を使用する遊びにおいては、縄跳び・ゴム跳びのように、長期にわたって掲載されている種目と、毬つき・たこ揚げ・輪回しなどの伝承遊びに替わって、一輪車・フープ遊びなどの新しい種目が挙げられている。しかし、平成1年：小学校指導書体育編、平成11年：小学校学習指導要領解説体育編において竹馬が挙げられているのは、伝承遊びを経験させるという意味で望ましい傾向だと思う。

固定遊具を使った遊びは、鉄棒・ジャングルジム・登り棒木などの掲載頻度が多いが、初期に見られた遊動円木・ブランコ・シーソーなどは校庭から消えてきている。球技は、ドッジボール・隊列フットボール・ポートボール・サッカー・バスケットボール・キックベースボールなど、いずれの時代を通しても挙げられている種目を含め、18種目が見られる。

表2 掲載されている鬼遊び名と頻度

頻度	遊びの名前
9	場所取り鬼・一人鬼
7	子殖やし鬼
6	猫と鼠・拳鬼・巴鬼
5	片手鬼・からかい鬼・子取り鬼
4	重なり鬼
3	日月遊び・ボール鬼
2	見張り鬼・横切り鬼・目隠し鬼・二人鬼・リレー鬼・影踏み鬼 円陣鬼・組鬼・迷い鬼・まね鬼・ハンカチ落とし・しゃがみ鬼
1	場所替え鬼・手つき鬼・かくれんぼ・竹の子一本・ひょうたん鬼・西洋鬼 あしなぎ鬼・名指し鬼・フットボール鬼・うさぎとび鬼・宝取り鬼

戦闘遊びは、作戦を立てたり、味方と協力して敵に当たるなど、遊びのおもしろさの要素が多く含まれており、昭和35年：小学校体育指導書以降挙げられていないのは残念である。

最近の体育指導書の傾向としては、スポーツ的な種目に多くの時間が費やされる傾向があり、勝敗あるいは技術の獲得が優先される傾向が見られる。生涯スポーツの観点から考えれば、スポーツ技術の獲得も大切なことではあるが、小学生の時代には、できるだけ多くの動作を経験させることも重要な課題だと考える。また、創造性を養ったり、社会性を育てるためには、スポーツのようなルールのきちんと最初から決められた遊びと同時に、自分たちでルールを創ったり、変えたり、工夫できるような、あいまいな遊びをもっと経験させることも考えるべきである。

5. まとめ

①大正、昭和、平成期に出された小学校体育指導要領に当たる資料の中から、運動遊びを抽出し、その内容、掲載数について考察を試みた。②掲載数に関しては、第二次世界大戦後に多くの種目が掲載されている。その後、昭和期には順次減少していたが、平成期に入り、増加の傾向が見られる。③遊びの系統別に見ると、鬼遊びの数は、終戦後多くの種目が挙げられていたが、暫時減少し、平成期の資料では3～4種目となっている。力比べ・競争については、平成11年の資料では6種目と増えている。戦闘的な遊びは、昭和28年：学習指導要領小学校体育編までは見られたが、その後掲載されていない。④運動遊びの種目の掲載数の減少は、学校における運動遊びの経験の減少につながり、ひいては、子どもたちの日常生活における運動遊び、外遊びの衰退につながることが考えられる。⑤体育指導書において多くの運動遊びを掲載し、教師がそれらを授業の中で展開することによって子どもたちの運動遊びの活性化を促す必要があると考えられる。

引用・参考文献

1）2001年7月，馬場調査：2003年1月27日，読売新聞掲載

2）1989年7月，寝屋川子ども問題連絡会調査

3）名前は明らかではあるが、個人情報保護のために記載しない．

4）馬場桂一郎(1999)，今，子どもたちの遊びは，体育科教育12月号：17頁～20頁

5）深谷昌志(1992)，無気力化する子どもたち（第6版），日本放送出版協会：東京都

6）井上一男(1976)，学校体育制度史増補版（第5版），体修館書店：東京都

7）子ども調査研究委員会(1993)，子どもたちの日常生活と文化に関する調査，大阪市教育委員会：大阪府

8）仙田　満(1983)，子どもの遊び環境，筑摩書房：東京都

9）竹之下休蔵・岸野雄三(1959)，近代日本学校体育史，東洋館出版社：東京都

（受理　2007年2月2日）